

井原市教育委員会 6月定例会会議録【公開用】

1. 招 集 平成28年6月15日(水)
2. 開 会 平成28年6月24日(金) 13時30分
3. 閉 会 平成28年6月24日(金) 17時25分
4. 会議の場所 403会議室
5. 出席又は欠席した委員

出席委員	教 育 長	片 山 正 樹
	教育長職務代理	藤 井 秀 彦
	委 員	奥 田 隆 夫
	委 員	佐 藤 和 代
	委 員	西 田 友 美

欠席委員 なし

6. 会議に出席した職員

大舌教育次長 倉田学校教育課長 藤原生涯学習課長補佐 藤井文化課長
宮スポーツ課長 綾仁美星天文台長 藤代学校給食センター所長
岡崎市立高等学校事務長 一安教育総務課長補佐

7. 教育長が告示した議題

附議事項

【報 告】

- 報告第18号 平成28年度井原市一般会計補正予算(第1号)について
報告第19号 大江公民館運営審議会委員の委嘱について
報告第20号 野上公民館運営審議会委員の委嘱について

【議 案】

- 議案第21号 井原市奨学資金借受者の決定について
議案第22号 第4期井原市教育審議会への諮問について
議案第23号 井原市教育審議会委員の委嘱について

8. 傍聴者 なし

9. 議 事

(1) 開 会

- ・片山教育長が開会を宣言

定刻がまいりましたので6月の定例会を開会します。委員のみなさんには足もとの悪
中、ご出席いただきありがとうございます。また、学校訪問につきましても数回にわた
りご参加いただきましてありがとうございます。梅雨の本番で今日も警報が出ております。
昨日は幼稚園、小学校、中学校から高等学校まで休校となり、今日は午前中に警報が出ま

したので、給食を食べてその後、それぞれの学校で対応を考えたということです。通学路の斜面の落石等により、通学路の変更を余儀なくされている学校も何校かありまして、このことについても対応してもらっている状況です。天候が回復して、早く解消して欲しいなど思っているところです。

今日は、このあと大きな課題として、教育審議会への諮問を考えていただくこととなりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(2) 前回会議録の承認・公開について

【片山教育長】前回会議録の承認、公開ということで事務局から説明をお願いします。

【一安課長補佐】前回5月定例会の会議録につきましては、既にご確認をいただいております。本会議終了後にご署名をいただきますので、よろしくお願ひいたします。

なお、報告、議案とも全て人事案件のため全て非公開としております。

【片山教育長】この件につきましては、報告のあったとおり承認いただけますでしょうか。

— 全会一致で承認 —

【片山教育長】では、そのようにお願ひします。

(3) 教育長の報告事項

【片山教育長】私の方で1枚用意しておりますのでご覧ください。

— 資料により、G7倉敷教育大臣会合倉敷宣言のうち、教育の果たすべき新たな役割について抜粋して紹介、夢の教室の実施状況、職場体験活動の実施状況、6月議会質問事項について説明 —

(4) 議 事

附議事項

【報 告】

□報告第18号 平成28年度井原市一般会計補正予算（第1号）について

【片山教育長】では、これより議事に移ります。

まず最初に、報告第18号平成28年度井原市一般会計補正予算（第1号）についてを議題とします。事務局より説明をお願いします。

【一安課長補佐】それでは、報告第18号平成28年度井原市一般会計補正予算（第1号）についてを説明させていただきます。

— 議案読み上げ 教育費に係る補正予算の内容について説明 —

【片山教育長】この件につきまして、ご質問はありませんか。

【藤井職務代理】井原中学校の設計業務委託料は、これから管理するような費用も含まれているのでしょうか。

【大舌次長】この後、その他で説明いたしますが、5月末で基本設計が完了しました。大まかな配置でありますとか、規模が固まりましたので、12月にかけて工事が出せるよう具体的な詳細設計に入ってまいります。その設計費のみを組み込んでおります。

【片山教育長】他にご質問がないようですので、報告第18号平成28年度井原市一般会計補正予算（第1号）については、ご承認いただけますでしょうか。

— 全会一致で承認 —

【片山教育長】それでは、報告第18号は承認することといたします。

□報告第19号 大江公民館運営審議会委員の委嘱について

□報告第20号 野上公民館運営審議会委員の委嘱について

— 教育委員会会議規則第15条第1項第4号の規定により非公開 —

— 全会一致で承認 —

【議案】

□議案第21号 井原市奨学資金借受者の決定について

— 教育委員会会議規則第15条第1項第4号の規定により非公開 —

— 全会一致で承認 —

□議案第22号 第4期井原市教育審議会への諮問について

【片山教育長】次に、議案第22号第4期井原市教育審議会への諮問についてを議題とします。事務局より説明をお願いします。

【一安課長補佐】それでは、議案第22号第4期井原市教育審議会への諮問についてを説明させていただきます。

— 議案読み上げ 諮問内容の協議に先立ち第3期答申の取り組み状況を項目ごとに各担当から説明する旨を伝える —

【倉田課長】《少子化に対応した学校のあり方、就学前教育のあり方、時代の進展に対応した学校教育の推進》について説明

【奥田委員】認定子ども園でデメリットもあるとの説明でしたが、具体的にはどんなものでしょうか。

【倉田課長】認定子ども園になると園長先生が一人でよくなるとか、民間の保育園との競合が一番大きな課題となっています。

【藤井職務代理】認定子ども園の関係で平成17年11月に鳥取県へ視察にいきました。ちょうど西江原幼児園を作るという話を聞いていたおりで、基本的には公立が幼稚園、私

立が保育園ということで、子ども園を作るうえでは壁が厚いのかなと実感します。公設民営も含めてそういった垣根が取り払われれば良いのかなと思います。特に今のご時世で、保育園の保育士の賃金的にも低いということがありますから、市の援助も含めて一つのレベルにあわせられて、幼稚園の良さを保育園に取り入れたりすることもできます。美星でも小規模保育所を作るということですが、補助金の関係でいろいろ難しいという話も聞きますが、子どもの教育については今まで以上に考えていかないといけない時代ですから、例えば特区的なものがあれば、また作れば活用してより子育てしやすい環境ができればいいと思います。特に作る予定のところは、お年寄りが集まるサロンとして使っていますので、そういう意味では小さな子どもと触れ合える場ができるのはいいことではあるけど、ちょっと中途半端なのかなと思っています。

【奥田委員】西江原の幼児園もできていろいろと園長を始め活動されていらっしゃるんですが、成果と課題が参考になるのではないかと思います。なにかそのあたりは聞いていらっしゃいますか。

【倉田課長】西江原幼児園の運営につきましては、非常にうまくいっていると伺っています。公立の幼稚園と保育園ということで、そういう環境が整っているところではいいのかなと思っています。やはり民間との競合というところが難しいのかなと思います。

【藤井職務代理】去年、木之子幼稚園で研究事業があった時に、保育園からも何人か来られて、見学とか研修に参加されていましたが、そういう機会も今までなかったということなので、幼稚園と保育園とが交流するような場の設定も必要なのかなと思います。保育園は人員的にも大変なところがあって、研修に出すのが難しいというところがあるかもしれません。

【倉田課長】県の方から「保幼小接続スタンダード」というものが出て、今、保育園と幼稚園と小学校が連携をして、スムーズな就学へというところで、その接続カリキュラムというものも作成することになっておりますので、これから幼稚園と保育園はいろいろな場面で連携を密にさせていただきようお願いしているところです。

【奥田委員】保幼小の連携ということで今年度から新しい方針として立てられ、期待しているところです。案外保育園幼稚園と小学校との繋がりというのが、なかなか難しい面があって、「小1プロブレム」の問題があったりと、やはり解消していかなくてはいけないなと思いがらいろいろ見せてもらっております。

いろいろな面で教員もお互いに、例えば、小学校の教員は、幼稚園での遊びがどんな学びになっているのかをどの程度認識しているのか。逆に、幼稚園では、小学校ではこんなことをするんだとか、いろいろな交流ができる接続スタンダードは非常に大事なことだと思います。

接続スタンダードは各小学校区で取り組まれているのでしょうか。

【倉田課長】顔合わせの会を5月の終わりに開催し、そこから各小学校区で取り組んでいた

だいており、早いところではもう進められており、実際に保育園へ保育を見に行ったり、逆に見に来ていただいたり、そういったことは始まっております。

【奥田委員】 とてもいいことだなと思いますので、これからどんどん進めていったらいいなと思います。

【藤井職務代理】 幼稚園から上がってくる子どもはある程度その状況は掴めていても、保育園から来る子に対してはもう一つ分からない部分も多い訳ですね。そういったことは事前にいろいろと情報交換して、スムーズに一年生で受け入れることができれば一番いいと思います。

大山塾の場合は新しく建てるようなことを位置的なことも含めて考えるようになるのでしょうか。

【大舌次長】 老朽化の問題が一番にあります。

【奥田委員】 将来的にはここへといった具体的な展望があるのでしょうか。

【大舌次長】 第7次総合計画の期間中には決める必要があります。

【奥田委員】 どうしても学校に行けない子が大山塾へ来て、そこでいろいろな活動をしながらか、少しでもエネルギーをためて、また学校へ戻れるような大事な施設ですので、子どもたちが安全安心な場所で活動しやすい環境を整えていくことは大事なことだと思います。

【藤井職務代理】 こういう施設がいないような状況になれば一番いいのですけれど、まずそういうことは、今の状況では考えられないでしょう。

【奥田委員】 通級指導教室は、小学校に関しては井原小学校に設置されています。小学生が実質的には多いと思いますが、通級の必要な中学生に対して学校からの要望はありますか。

【倉田課長】 小学校の間は、特別支援学級に入るか通常学級に入るかですが、その間を救うというところで通級指導教室はありますが、中学校に行ったら通級指導教室はないので、特別支援学級に入るか通常学級に入るかの選択しかなくなります。大きな市にしか中学校の通級指導教室はないので、井原市にもできたらと考え、県の方にも要望をしていきたいと思っております。実際、設置している数は県内でも少ない状況です。中学校からの要望というよりは、就学指導時に通級指導教室で救われていた子をどうしたらよいかという話題にはなっていることが多い状況です。

【西田委員】 この間、人権の研修でも障害者差別解消法についてお話がありました。特別支援教育の推進の項の就学指導委員会のあり方の工夫のところ、合理的配慮を行う必要があるとありますが、現状として、合理的配慮をしなくてはいけないけれどできていないとか、そういう課題があるのでしょうか。

【倉田課長】 文字では合理的配慮と表していますが、学校教育のなかでは、今までも配慮してきた訳ですが、そのなかで物的な施設面で十分できていない部分もあるかもしれませ

んが、今までも当然やってこようとしたものであるものと認識しております。

【片山教育長】柱が3本ありまして、一つは個人に対する指導計画で、これが一番上位となります。あとは、人的な支援、物的な支援となっており、これまでもやってきたことです。

それ以上に子どもが困っていることに対して、少しでも減らされるような取り組みをしていかなければならないということが求められています。

【佐藤委員】小学校の時は専門性のある先生がたくさんいらっしゃるイメージがありますが、中学校では、空いている先生が付いていらっしゃるイメージがあります。

【倉田課長】中学校になるとどうしても教科ということになってしまいます。教科の免許を持った者が担当していくので、特別支援の免許を持っている者ばかりではないことは確かに言えます。

【佐藤委員】小学校の時は専門性のある先生が専門性のない先生を指導していくという縦のつながりがあるように感じますが、中学校では簡単に先生を張り付けられているイメージがあります。

【片山教育長】西備特別支援学校に行かれていた先生が小学校や中学校に入って来られております。その先生方が中心になって、学級を持っていただいているところがかなりありますが、そうでない学校もあります。教科の関係でなれない先生もいらっしゃいます。西備特別支援学校が近いですので、かなり交流もできており、そういう面ではありがたいなと思っております。

【佐藤委員】なかよし運動会で子どもたちの生き生きした姿を見させていただきました。井原市で支援学校を作られる考えはありますか。

【倉田課長】市で作られているのは倉敷市しかないと思います。他は県立の支援学校となるので、市独自で作ることは難しいと思います。

— 休 憩 —

【藤代所長】《学校給食のあり方》について説明

【岡崎事務長】《市立高校のあり方》について説明

【奥田委員】開かれた学校づくりの推進の項で、小人数の落ち着いた学校環境を維持するため実施していないとの説明でしたが、これはどういう関わりがあるのでしょうか。

【岡崎事務長】学校の特色として、生徒に対する授業を中心におきたいという意味でございます。

【藤井職務代理】高校でも特別支援教育が重要な柱になるのでしょうか。

【倉田課長】特性を持った子もおります。

【佐藤委員】以前、大山塾から週に1回くらい保健室の子をケアということで行っていた時

期がありましたが、今は行かれていないのでしょうか。

【倉田課長】今はしておりません。ただ、巡回相談には入ってもらっています。

【藤井職務代理】学校を一般社会へ開放的に利用してもらおうということに対してはもうちょっと考える必要があるという感じですね。

学校給食のランチルームの関係では、他に保護者の方から要望がありますか。

【藤代所長】美星と芳井につきましては、現にされております。旧井原市の学校につきましては、建替える時に考えるということはあると思いますが、それ以外で空き教室を利用するというのも大きなスペースが確保できないなど、なかなか難しい課題があります。この間、給食主任の先生方に集まっていたがそのような要望があったとは聞いておりません。

【片山教育長】井原中学校からもランチルームの要望はありませんでした。野上小学校も空き教室がありましたからランチルームができました。

【藤井職務代理】ランチルームができる適正規模もありますね。

【藤原課長補佐】《生涯学習推進体制の充実》について説明

【藤井職務代理】私もまなびフェスタの実行委員長を5年ほどしましたが、中・高生の企画を取り入れるとなっていたことを初めて知りました。やっと一昨年くらいから取り組みができるようになってよかったなと思います。

【奥田委員】コーディネーターの項で、学校支援の地域本部事業のコーディネーターが小学校区でかなり増えてきているのでしょうか。

【片山教育長】小学校で8校、中学校2校となっています。

【奥田委員】コーディネーターを置かれて活動を進められていることは大変良いことだと思いますが、活動の実態はどのようなものなのでしょうか。

【藤原課長補佐】毎年活動報告書を作成していますが、地域によって若干差はあるようです。それぞれ様々な学びの場を提供していただいたり、地域の方にも講師できていただいたり活動していただいているところです。

【奥田委員】コーディネーターの活動によって、学校と地域をうまく接続できるかどうかのキーマンになると思います。コーディネーターの活躍によって学校にとってもありがたいし、地域もいろいろな人材が吸い上げられて、地域の方々もやりがいを感じておられることと思います。

【藤原課長補佐】コーディネーターに頼るところが大きいと思います。

【藤原課長補佐】《時代に対応した公民館活動のあり方》について説明

【藤井職務代理】美星自治公民館は旧井原市、芳井町とは違う組織となっています。美星町のなかでは地域の活力にはこの自治公民館が中心となっている部分があります。

【藤原課長補佐】一番大きな違いは補助金にあります。これからの活動について検討していく必要があるのかなと個人的には考えております。

【藤井職務代理】自治公民館以外でも地区社協など地域のなかで活動する団体もあって、役員等は結構同じようなメンバーで組織されていると聞きます。公民館組織だけではなく、もう少し枠を広げた部分で、市役所のなかでも部と社協とかと協議していただいて、事業を推進していくようなところもあっていいのかなと思っています。

【藤原課長補佐】旧美星町でみるとコンパクトでいい行政が進められていたと思います。自治公民館についても旧美星町ではいい組織であったと思います。横並びにする必要もないのかなと思っています。自治公民館は自治公民館で位置づけを考えていく必要はあるかもしれませんが、組織を井原市や芳井町と一緒にしてしまう必要はないのかなと個人的には思っています。

【藤井職務代理】予算的にも厳しい面もあるでしょうけどよろしくお願いします。

【奥田委員】公民館行事に子どもの参画を図るという項で、参加する面はできているし、子どももそういう気持ちでやっていると思います。参画となるとやはり主体的に行事に取り組む必要が出てきます。夢源塾の活動が始まっており、どんどん広がっていくといいかなと思っています。笠岡市の陶山公民館では中学生が主体となって積極的に運営していくかたちで公民館活動のなかの一つのエリアを自分たちが責任を持って企画運営していくという紹介がありました。

【藤原課長補佐】現状では子どもたちの参加のみにとどまっているというのは、大人が考えた行事となっている。他地区では、中学生や高校生が中心になって、小学生に体験させる計画を立てる。そういった組織づくりから入って行事を進めていっている例もあり、参考にできたらと思っています。

【奥田委員】ゆくゆくは地元を愛する気持ちに繋がるし、一度は大学へ出ていってもまた井原へ戻ってきたいなと思ってくれたらうれしいです。そういった達成感を味わうことで中学生や高校生世代をなんとか地域に引き止められたら将来にわたって大きなものが返ってくるような気がします。

【片山教育長】美星の夢フェスティバルはそういう一連の取り組みになっていますか。

【藤井職務代理】総合学習のなかに取り入れていただいてから、中学生の参加が積極的になってきたところがあります。何年か経ってその経験者が高校生になった時に手伝いをしてくれる体制ができればいいのかなという気はします。投げかけてみる必要があります。

【片山教育長】学校ではなく実行委員会で受けていますよね。

【奥田委員】いい活動ですよ。

【藤井職務代理】事前に2回、終わって反省会をしています。保護者と子どもが集まって、それぞれのところで話し合って内容を発表してもらって協議します。あとはそれぞれ学校へ持ち帰って準備をしている状況です。

【片山教育長】会議は学校でしているのですか。

【藤井職務代理】公民館で開催しています。だいたい7時半から8時半の一時間くらいです。

ちょっと第三者の参加が少ない状況です。そのあたりは公民館の事務局や自治公民館に呼び掛けて協力をいただいています。生徒数が減ってきているので厳しい面も出てきております。

【奥田委員】卒業した子どもたちが手伝いに来たり、アドバイスをくれたりしてくれるといいですね。大人が言うよりも世代の近い人からのアドバイスがずっと効くと思います。

【藤井課長】《文化活動の推進》について説明

【藤井職務代理】美星町史の改定版は51年に発行した中身も変えるということですか。それ以降の追記ということでしょうか。

【藤井課長】芳井町史を発刊する時期で答申をいただいたこともあり、内容を新しくしたらどうかということだと思います。51年の発刊当時にはあった資料が、先日開催した文化財センターの恋文展の際も美星町史に載っている資料を探しましたが、既に紛失していたりとそういった資料が結構あります。時間が経過しているというところもあり、改定版の発刊は困難との結論に至っております。

【藤井職務代理】改訂までいかななくても、51年の発刊以降平成17年までの間の流れが分かるものがあっても悪くはないと思います。

【片山教育長】美星町史に資料編はありますか。

【藤井課長】美星町史は資料編と通史編の2冊で構成されています。

【片山教育長】作ってから20年経ったら内容を付け加える必要もあります。

【藤井課長】在庫を多く抱えており、新しい発刊する予定は今のところありません。

【片山教育長】ガイドボランティアのニーズはどのようなものがありますか。

【藤井課長】文化財センター講座での文化財めぐりでは、たいてい定員が集まります。興味関心がある人はそこそこいらっしゃるかと思います。目的もなくあちこち歩くよりは、学芸員が解説しながら一定のコースをまわる方がそういった方の関心を満足させるという面ではいいと思います。

【片山教育長】観光ボランティアとはまた違うのでしょうか。

【藤井課長】ここでは、文化財のガイドボランティアと認識しております。

【藤井職務代理】なかなか井原で観光ボランティアというのも難しいのでしょうか。

【藤井課長】地域創生課でも養成をしてはどうかという声は出のですが、現実問題として難しいところがあります。観光地が一定量集積している必要があると考えます。

【片山教育長】日本は観光客が2,000万人あって、東京オリンピックまでには4,000万人にまでインバウンドを増やすとの目標を掲げています。井原まで来てもらえるかどうか。

【西田委員】子ども向けのメニューの文化財センター講座で、勾玉づくりに参加しましたが、子どもの参加が少なかったように思います。お知らせくんや広報でもお知らせしていたのに、たまたま参加した時が少なかったのか、全体的に講座を開いても参加が少ないのでしょうか。

【藤井課長】結構親子連れで参加されている方が多いです。去年は古代米を炊いて食べる事業を行いました、その時は子どもが15・6人、保護者の方が7・8人だったのですが、たいてい子ども向けのメニューを考えております。たまたまその時がそうだったのかと思います。結構ずっとやっているの、飽きたのかもしれないという気もします

【奥田委員】民具伝承館等施設の維持管理が大変だろうと思いますが、貸し出し等で有効に活用とありますが、貸し出しに対応しているのですか。

【藤井課長】学校の授業など要望に対応している状況です。

【奥田委員】例えばどんな要望でしょうか。

【藤井課長】社会科の副教材として貸し出したものと思います。最近では歴史民俗資料館の企画展で展示するのが主な用途となっております。

【奥田委員】今の子どもたちが知らないものを、現物を見せながら昔の暮らしはこうだったんだよと伝えると大変わかりやすいので、活用ができればと思います。

【藤井課長】活用の方法は今後広げていく必要があると思います。

【藤井職務代理】ずっと課題となっていますよね。ひとつだけ離れていますので、常時開設はなかなか難しいでしょう。

【片山教育長】まほろば館に隣接してあればいいのだけれど。

【藤井課長】その場合、美星からこの施設がなくなることがどうかという問題はあります。

【片山教育長】訪ねて行く人が少ない状況です。

【藤井課長】建物の維持管理が大変な状況にあります。廃園になってからでもかなりの年数が経っています。

【藤井職務代理】国際交流の推進の項で、文化祭と国際交流フェスティバルと同時期の開催とあるが、同時に開催していたのでしょうか。

【藤井課長】去年は市民会館で文化祭の会場の前で国際交流フェスティバルを開催してもらいました。例年井原駅で開催されてきました。市民会館の会場に人が集まらない状況でしたが、同時開催にしてもらい、会場に多く来られ、展示も見ていただいたような状況です。

【佐藤委員】国際交流フェスティバルはどこが主催されていますか。

【藤井課長】国際交流協会が主催で事務局は企画課です。

【宮 課長】《体育スポーツ活動の推進》について説明

【奥田委員】いばら生き生きクラブの会員数はどのくらいいらっしゃいますか。

【宮 課長】平成27年度で490人くらいです。一番多い時で600人弱の時があり、一時期350人くらいまで減ったのですが、いろいろな活動により、だんだん増えてきている状況です。

【奥田委員】いろいろなサークルがあると思いますが、人気のところもあれば、申し込みの少ないところもあるのでしょうか。一番人気のあるサークルはどこなのでしょうか。

【宮 課長】定員を超えるのは、陶芸です。スポーツクラブといいながら文化活動もしています。スポーツ部門ではバドミントンです。これまでも新体操やレクリエーションを立ち上げましたが、なかなか会員の獲得が難しかったということがありました。今は15教室あります。

【佐藤委員】昨年度約490人ということでしたが、大人と子どもの比率はどのくらいでしょうか。

【宮 課長】だいたい60%くらいが子どもの会員です。スポーツの関係は子どもが多く、文化の関係は大人が多い傾向となっています。指導体制に問題があって、なかなか大人と子どもを一緒にというのはやりにくかったりする面があり、指導者の確保が大変重要ですが、難しいところです。

【西田委員】5年以内に自立できるようにするとありますが、全部がめざしているのですか。できそうなところとできそうにないところがあると思いますが。

【宮 課長】本来スポーツクラブは、民間移行の後も含めて自立した団体で運営することが望ましいとされていますが、井原市の場合、行政が中心となって進めてきたということもあって、なかなか移行がうまく進んでいないという現状です。そういう中であって、組織の改革であるとかみんなで意見を出し合って工夫しながら運営をしてもらっています。これからなんとか自立に向けた組織改革もしていこうという機運も盛り上がってきています。

【片山教育長】フットサルは生き生きクラブに種目としてありますか。

【宮 課長】ありません。団体競技はどうしても相手がいけないし、人数も揃わないといけないし、難しい面があります。

【片山教育長】体育協会にもありませんか。

【宮 課長】体育協会にもありません。ただ、サッカー協会のなかにはあります。

【藤原課長補佐】《市立図書館の今後のあり方》について説明

【佐藤委員】図書館でのCDやDVDの貸し出しは、傷問題で困っているということでしたがどうのことでしょうか。

【藤原課長補佐】過去の経験からか、傷が入っている箇所をチェックして借りる人にも確認してもらっている状況です。

【佐藤委員】いいことだとは思いますが、チェックが厳しいと感じます。

【藤原課長補佐】 ちょっとハードルが高い感じはします。

【佐藤委員】 CDやDVDは定価が高いですよ。傷が入ったら何万円もかかる場合があるでしょう。

【藤原課長補佐】 傷の入り具合によっては視聴できない場合もあります。

【藤井課長】 個人で聞くものは安いですが、公に貸し出し目的のものとなると著作権の問題もあり、高価なものとなります。

【西田委員】 傷が付いて困っているけど、貸し出しをやめることは考えておられませんか。

【藤原課長補佐】 できるものは積極的に貸し出していきたいと思います。

【奥田委員】 司書や職員の配置に特に問題はありますか。

【藤原課長補佐】 数で言いますと、夏場は時間が延長されますので、以前よりシフトを組みにくいという話は聞きますが、ギリギリで回している状況です。ある程度ルールを決めて、空いたところに館長が入っているようです。

【佐藤委員】 館長さんは美星や芳井へは行かないのでしょうか。

【藤原課長補佐】 基本的に井原図書館の館長なので井原図書館のみです。

【倉田課長、藤原補佐、岡崎事務長】 《学社融合のあり方》について説明

【奥田委員】 ボランティアルームを設置しているのはどの学校でしょうか。

【倉田課長】 全部は把握しておりませんが、学校訪問などで見てみると木之子小学校や荏原小学校で確認ができております。

【奥田委員】 結構そうした配慮で作っておられるということですね。空き教室の問題もあるでしょう。

【片山教育長】 あればありがたいと言われたことはあります。

【奥田委員】 ボランティアに行っても、なかなか職員室や校長室には入りにくいですからね。

【片山教育長】 ボランティアが終わってすぐ帰るのではなく、コーヒーでも飲んで帰れるような部屋があればいいと言われます。

【奥田委員】 西江原小学校にも校門を入れてすぐ近くにありますがね。

【佐藤委員】 私も今コーディネーターをさせてもらっていますが、昨年度、小中の教頭先生に空き教室がありませんかと伺ったら、空き教室ありませんと言われました。たぶん空いた教室は、子どもたちがなんらかの形で使うような特色をつけた教室に変わってきているので、すぐそれを取り上げるようなことにはならないと言われました。今日の学校訪問でボランティアルームにと提案された教室は壁から水がしみ出している状況でした。ボランティアルームで使用することになったら修繕してもらえるものなのでしょうか。

【一安課長補佐】 今年度、屋根の防水工事と併せて予算要求する予定でしたが、雨漏りの方がひどかったため、防水工事を先行してしまいました。壁の塗装が遅れていますが、要

求はしていく予定です。

【片山教育長】続いて、諮問の説明に移ります。事務局より説明をお願いします。

【一安課長補佐】《諮問書の鏡》について説明

【倉田課長】《少子化に対応した学校教育のあり方、就学前教育のあり方、時代の進展に対応した学校教育の推進》について説明

【岡崎事務長】《市立高校のあり方》について説明

【片山教育長】地域の意向を大切にしながら、小規模の特性を生かした学習の充実のあり方についてとしているのは、井原市としてはこちらの方向性が強いのでこのように表現しています。

【藤井職務代理】小中連携でスムーズに中学校へ接続するということですね。

【片山教育長】中1ギャップをなんとかなくしていきたい。

【倉田課長】県では、適正規模ということばも使われて、小規模校の合併などを進めるような話も出ていますが、井原市としては地域の意向を大切にしながらということで、地域からの話ありませんので、合併を進めることは考えておりません。

【藤井職務代理】基本的に小中一貫校では、小学校の子がすべて中学校へ行くことになりませんか。よそから入ってくるということは考えられないのでしょうか。

【倉田課長】教育課程が小学校と中学校が重なっていますので、小学校の教育課程が終わった子が途中から入るとするのは非常に難しいことだと思います。

【佐藤委員】転入などで来た子は、一貫校とそうでない学校があった場合、一貫校には入れないということになるのでしょうか。

【倉田課長】入れないことはないですが、複式学級がある学校に入るようなもので、入りづらいと思います。

【西田委員】複式では、転校生が来たら教頭先生とマンツーマンで授業をしてもらって差をなくすということをされています。

【倉田課長】そういうこともありましたね。

【片山教育長】中学校では子どもが少ないので部活動を合同で行っているような場合もあります。その部のある学校への転校はどうかといった問題があります。

【佐藤委員】現状では、そういう場合は住民票を移さないといけないのでしょうか。

【片山教育長】住民票を移すのではなく、親族があるところへ寄留というかたちをとっています。自由にしすぎると学校が成り立つのかという問題も出てきます。

【佐藤委員】子どもがどんどん減っていくので、よその都市の子が来やすくなるようなコンセプトを立てて、例えば山間留学を進めてみるというのはどうでしょうか。

【片山教育長】住むところの問題があります。

【佐藤委員】まちの方で悩まれている方がおられたら来てくださいというのはどうでしょう

か。

【藤井課長】 独特なサービスを付加するのは、生活部分でオプションをつけることはできるかもしれませんが、義務教育では難しいと思います。

【藤井職務代理】 公民館や地域が放課後や土日の行事をすとかでの色付けは可能かと思えます。

【佐藤委員】 発達障害の早期発見及び発達支援に留意する必要があるとの記述がありますが、早くその子の状態を見極めるのが大事だと思いますが、そのために幼稚園の先生方の発達障害に関する勉強会は多く開催されているのですか。

【片山教育長】 幼稚園の中の部会に特別支援教育部会というのがあり、そこで研修したり、講師の方をお呼びしたりということで、研修はかなり積んでこられております。

【佐藤委員】 それで、幼稚園と保育園と小学校と連携のところでもそういう部会があるのでしょうか。

【倉田課長】 幼稚園のみの部会です。

【片山教育長】 連携としては各機関との連携もあたるのか。

【倉田課長】 各機関との連携までは想定していません。

【片山教育長】 早期発見には、3歳児検診で見つけられた子について情報を幼稚園にだけ聞いたらという声を聞いている。

【倉田課長】 学校教育も幼稚園からは情報が入りやすいのですが、保育園とはもっと連携していかないと発達障害であるとかの情報が得にくいので、もっと連携を取って事前に情報がいただけるような体制づくりが必要との答申がいただけるとありがたいと思います。

【片山教育長】 開かれた学校づくりで学校評議員制がありますが、国ではコミュニティスクールの取り組みを進めています。何が違うかということ、委員の数がまず違います。中身としては、学校運営協議会は学校長が示した教育の経営方針を承認して、学校運営をするというかたちをとっています。そのなかには人事の話も入ってきて必要な先生の申し入れができることとなっています。全国的には3割ほどで、そういう面もあり、なかなか進んでおらず、学校評議員制も十分機能していることから、いらないという立場のところが多い状況です。

【奥田委員】 不登校に対する記述はありますが、いじめに対する記述は必要ありませんか。

【倉田課長】 今事案がないからといって、発生した時どうするかは考える必要はあります。

【藤井職務代理】 大きく変わった時にきちっと対応できる体制ができていればいいと思います。

【片山教育長】 いじめの文言を入れた方がよいでしょうか。

— 全会一致で承認 —

【片山教育長】 いじめと不登校を併記する方向で修正します。

【藤原課長補佐】《地域創生（協働のまちづくり）と生涯学習のあり方、家庭・地域の教育力の向上》について説明 「ともなう」を「伴う」で統一することを訂正

【藤井職務代理】ここまでいくと生涯学習は守備範囲が広がりますね。地域そのものを元気にしていくことになりますね。

【藤原課長代理】公民館の関係でいいますと、生涯学習と地域づくりの拠点となっており、委員会側と市長部局の協働のまちづくりが混在しているようなかたちとなっておりまして、役割分担とかその辺りの整理していく必要なのかなと考えております。

【藤井職務代理】各公民館レベルでは、協働のまちづくりにしても社協にしてもすべて取り込んでいる状況となっています。それが公民館の中でうまい具合に機能するように市の方でサポートしてもらえるようになったらいいのかなと思います。

【藤原課長代理】公民館の運営審議会のメンバーとまちづくり協議会のメンバーはほとんどかぶっている状況となっています。行政の縦割りの弊害となっていると言えます。

【藤井職務代理】サポーターにしても、地区社協で進めているボランティアセンターにしても非常に似ているところもあって、公民館レベルで噛み砕いてやっていけるようになったらいいと思います。当然学校教育の中でもありますよね。いろいろなものが関わってきても地域の中ではそれを一本のかたちでやっていくようになればいいかなと思います。

【佐藤委員】本分で自尊意識等の低下等が懸念とありますが、どちらかの等をとってはいけませんか。

【藤原課長補佐】低下等の等を取ることとします。

【藤井課長】《活力ある文化活動の推進と情報発信》について説明 「また、」と「さらに、」で段落分けることを訂正

【藤井職務代理】文化協会の会員も減ってきているのですか。

【藤井課長】減ってきているとはいっても1,400名程度はおり、メンバーが変わらない状況です。若い世代の方に参加して欲しいと思っています。

【藤井職務代理】前回の答申では、団塊の世代を照準に入れたような書き方をされていると思います。団塊の世代のリタイアが増えても、入ってもらえていない状況なのですね。

【藤井課長】高齢の方ががんばられています。

【藤井職務代理】ある程度世代交代をしていかないと先細りではいけませんよね。

【佐藤委員】スポーツはニュースポーツというものがありますよね。文化にはニュー文化はどうなのでしょう。例えばアニメなどは、そういう分野だと若い人も自然に湧いてくるような気がします。

【藤井課長】田中美術館では難しいと思いますが、機会は持ちたいと思っています。

【藤井職務代理】新見の美術館ではサブカルチャー的なものも取り入れられています。

【片山教育長】ニュー文化の視点も必要なのでしょうね。

【宮 課長】《気軽にスポーツに親しむことができる環境づくり、競技スポーツの振興》について説明

【藤井職務代理】団体スポーツの大会では、参加チーム数が減ってきていますか。

【宮 課長】野球では、以前は60チームぐらいあったのですが、現在では7チームほどしかなくなりました。反対にシニアのチームが7チームくらいに増えました。バレーボールでは、なかなか大会が成り立ちにくい状況になってきています。

【藤井職務代理】昔は地域で野球のチームがありましたが、今ではなくなっていますよね。

【宮 課長】企業チームもほとんどありません。

【藤井職務代理】難しいですよ。高校とか大学までやっても、それから先の受け皿がない状況ですから。

【片山教育長】本文に市民がスポーツの大切さを再認識し、自主的にスポーツに取り組むきっかけづくりの場になるよう「市民スポーツの日」を充実させる必要があるとありますが、市民スポーツの日が主なのか、きっかけづくりが主なのでしょうか。

【宮 課長】「市民スポーツの日」を充実させることなどにより、市民がスポーツの大切さを再認識し、自主的にスポーツに取り組むきっかけづくりの場を提供する必要がある。に変更します。

【片山教育長】他にご意見がないようですので、議案第22号第4期井原市教育審議会への諮問については、ご意見のあった部分を修正し、ご承認いただけますでしょうか。

— 全会一致で承認 —

【片山教育長】それでは、議案第22号は承認することといたします。

□議案第23号 井原市教育審議会委員の委嘱について

【片山教育長】次に、議案第23号井原市教育審議会委員の委嘱についてを議題とします。事務局より説明をお願いします。

【一安課長補佐】それでは、議案第23号井原市教育審議会委員の委嘱についてを説明させていただきます。

— 議案読み上げ 設置の目的、委員の役割、委員の任期について説明 —

【片山教育長】提案のありました議題に対するご質問はありますか。

【藤井職務代理】審議の流れはどうなっていますか。

【一安課長補佐】お話が出ましたので、部会構成についてもご協議いただければと思います。第1回教育審議会を7月15日（金）午前10時から文化財センター「古代まほろば館」2階研修室で開催する予定としております。会議の内容は、委員の委嘱、審議会への諮問、審議計画、部会構成等を予定しております。教育委員会からの諮問ということで、ご都合がつけば、委員のみなさまにもご出席をいただきたいと思いますと考えております。なお、

教育審議会の部会構成の協議では、審議会委員や教育委員会事務局職員の部会への割り振りの提案を行います。部会は、学校教育部会と生涯学習部会の2部会を設けることとしております。審議会委員及び事務局職員の割り振りにつきましてご意見がいただければと思います。また、前回の定例会で教育長より、教育委員のみなさまにも、審議会、部会へオブザーバー参加をいただくよう依頼がありましたが、教育委員さんは2部会ともご参加いただけるのか、それとも審議会委員同様割り振りしてご参加いただけるのかお聞かせいただけたらと思います。

— 奥田委員と西田委員が学校教育部会を、藤井職務代理と佐藤委員が生涯学習部会を担当することに決定 —

【片山教育長】他にご意見がないようですので、議案第23号井原市教育審議会委員の委嘱については、ご承認いただけますでしょうか。

— 全会一致で承認 —

【片山教育長】それでは、議案第23号は承認することといたします。

以上で議事は終了いたしました。

(5) その他

【片山教育長】その他として、委員のみなさんから何かございますか。

【片山教育長】ないようですので、事務局から何かありますか。

— 大舌次長から井原中学校の基本設計の概要について説明 —

— 一安課長補佐が岡山市町村教育委員会連絡協議会の出欠を取りまとめ —

— 各担当課長から教育委員会平成28年7月行事予定表により行事予定を説明 —

— 7月定例会を7月21日木曜日午前10時から、古代まほろば館2階研修室で開催することに決定 —

(6) 閉会

【片山教育長】以上を持ちまして、6月定例会を閉会とします。委員のみなさま、本日は長時間大変ありがとうございました。